



地域学校協働活動

コミュニティ・スクール だより

今回は、8月に実施した視察、研修の報告と各校で行われている熟議の紹介をします。

柳井市立柳井小学校視察（8月22日）

広島県教育委員会主催のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に関する先進地視察で山口県柳井市の柳井小学校を訪問しました。柳井市と柳井小の取組を紹介します。

スクール・コミュニティによる「教育のまちづくり」

スクール・コミュニティとは、学校を中心に市民が交流を深め、新たな絆を生み出しながら、人づくり、まちづくりを進める柳井市の取組で、各校が次の3つの仕組みを作っています。
○コミュニティ・スクール・学校運営協議会を設置し、地域に学校を開いて学校課題や目標を地域と共有しながら学校運営に参画しています。

○学校応援団・学校の教育活動を充実させるための授業支援等のボランティア活動を行っている団体です。柳井小学校応援団は「なぎの会」という名称で、学校からの支援の内容だけでなく、その活動の目標も共有し、共に学びを育てる活動を行っています。学校は、地域の方が、より学校を身近に感じ、実態を把握しやすいように、支援者のための授業参観を開くことに加え、大人対象の茶道教室や音楽鑑賞等を開いています。

○地域協育ネット・15歳までの育ちを支えるため、中学校区で組織されたネットワークです。地域の様々な団体が登録をし、各中学校区の実態に応じた活動を行っています。柳井小学校は、柳井中学校区の8校と連携しながら、今年度は「情報モラルのあり方」について実態の共有や共通した取組の実践を行っています。

最後に、柳井小学校の地域コーディネーター代表の方が、大切にされていることを2つ話されました。1つ目は、**柳井小学校の学校教育目標の実現に向けて、めざす子ども像を共有して児童に関わる**ということ。2つ目は、支援に切れ目なく、**持続可能な取組にしてい**くということ。この2つは、大切な視点として廿日市市のCSを運営していきたいものです。

スクール・コミュニティを進めるための仕組み

①コミュニティ・スクール（学校運営協議会）

課題や目標を地域と共有して、地域と一体となって学校運営を展開

熟議＝熟慮と議論



柳井中学校



柳井小学校

スクール・コミュニティを進めるための仕組み

②学校応援団

大人の茶会部（大島中学校）



茶会部
（大島中学校）



音楽鑑賞
（柳井中学校）

「大人の学び」の場に
人格の形成・豊かな人生・生涯学習
大人が
子どものモデルに

第2回地域学校協働活動コーディネーター養成講座（8月26日）

広島県教育委員会主催の2回目の研修では、他校の方と小グループをつくり、テーマを決め活動プランをつくる熟議がありました。コーディネーターの役割の一つである、地域・学校の教育活動への支援や企画に関する活動を考える際に役立つ研修でした。講師の円光歩先生（一般社団法人まなびのみなど）からは、活動をイメージする際、子どもたちにどんな力をつけていくかを明らかにした上で活動をつくっていくことが大切である、という話がありました。**「子どもにつけていきたい力の共有」**が、重要なキーワードです。

今夏も多くの学校で熟議が行われました。

協働活動で行われる授業支援は、家庭科や図画工作科等の技能面、安全面での支援だけでなく、総合的な学習等で行われるふるさと学習のゲストティーチャーや算数科等の各教科でつけたい資質の育成に関わる支援が増えています。その支援で必要なのは、視察でも、様々な研修でも言われている、**その活動は、どんな目標で実施されるのか、子どもにどんな力をつけたいのかということ**を明らかにして取り組むことです。何を目的とした支援を行うのかを関係する全ての大人が共有することが必要です。また、学校運営をより充実させるために、教育課題解決に向けて、地域、保護者の意見を取り入れていくことも必要です。これらに取り組むため、夏休みに熟議を行う学校が増えています。

廿日市市内で今年度に行われた各校熟議のテーマを紹介します。

○地域とともにある学校づくりに関して

「子どもたちの資質能力を高めるために、学校において地域の力をどう生かしていくか」

「児童・教職員・保護者・地域の well-being を実現する学校づくりのために」

「地域と学校が一体となることができる取組」「本校の課題と改善策」

「廿日市中学校の未来を考える」

「四季が丘中学校をよりよい学校にするために」

○めざす子ども像の共有に関して

「主体的な子どもの姿を引き出す大人の役割」

「自立した学び手を育てるために」

「地御前っ子 次への STEP UP」

「どんな宮内っ子に育ててほしいか」

「生徒が主役の佐伯中について」

「生徒指導規定 眉について」

○安心できる場づくりに関して

「災害に強い学校づくり」

「安心・安全な居場所づくり」

○ふるさと学習、地域学習に関して

「生活科・総合の学習内容づくり（年間計画の見直し）」

「宮島の未来について」

「ふるさと原を誇りに思い、自分で考え自分で行動する児童の育成を目指して」



コミスクだよりNo.23で紹介した、宮島学園、廿日市小学校に見られるように、学校規模にかかわらず、熟議は、なるべく多くの考えが出せるよう、小グループによる話し合いが中心です。また、テーマによっては、子ども自身の意見を反映させるため、子どもが参加する熟議を実施する学校も増えてきました。

今後は、校長先生のリーダーシップの下、熟議で話された内容が、目標の達成に向けて、どう具現化されていくかが重要です。まずは、話し合いの中から共有すべき内容を広く公開し、取組を進めましょう。そして、以降の学校運営協議会で具現化の過程を検証し、さらなる改善をめざす熟議・取組へと連続していくことが、子どもの学びを支えることにつながります。

廿日市市教育委員会生涯学習課

〒738-8501 廿日市市下平良一丁目 11 番 1 号

TEL(0829)30-9203 FAX(0829)32-5163



市ホームページ